

国民年金特別会計

○ 国民年金特別会計

(国民年金特別会計法 — 昭36.4.12 法63、国民年金特別会計法施行令 — 昭36.4.12 政 100)

この会計は、「国民年金法」(昭34 法141)に基づき、国民の老齢、障害又は死亡に関して必要な年金の給付等を行う国民年金事業を經營するため、「国民年金特別会計法」に基づいて設置されたものであり、昭和61年度は基礎年金制度創設に伴い、基礎年金に関する経理を区分して明確にする必要があるため新たに基礎年金勘定を設けたほか、国民年金勘定、福祉年金勘定及び業務勘定に区分されている。

◎ 基礎年金勘定

この勘定は、基礎年金事業の収支(業務勘定に係るものを除く。)を經理するもので、基礎年金の給付に要する費用に充てるための国民年金勘定及び厚生保険特別会計年金勘定からの受入金並びに年金保険者たる共済組合からの拠出金を主な財源として基礎年金給付費等の支出を行っている。

◎ 国民年金勘定

この勘定は、拠出制国民年金事業の収支(業務勘定に係るものを除く。)を經理するもので、保険料、運用収入及び国庫負担金を主な財源として年金給付等を行っている。

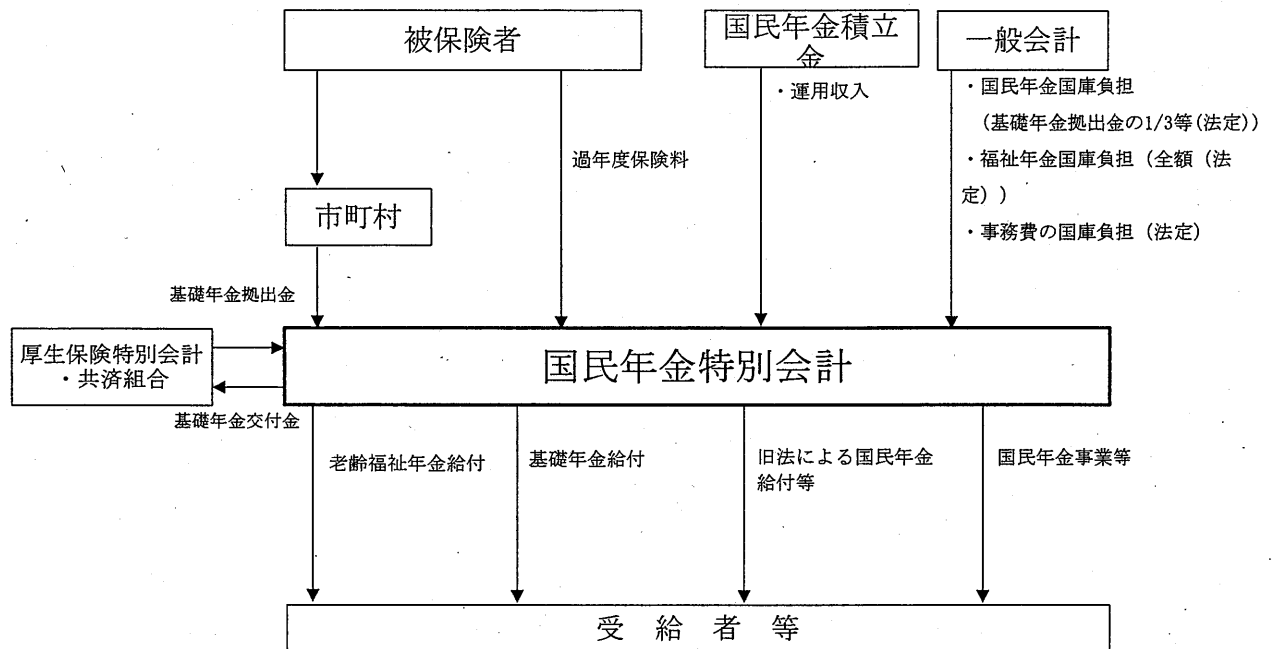
◎ 福祉年金勘定

この勘定は、福祉年金事業の収支(業務勘定に係るものを除く。)を經理するもので、国庫負担金を財源として福祉年金の給付を行っている。

◎ 業務勘定

この勘定は、基礎年金、拠出制国民年金及び福祉年金事業における業務取扱い、福祉事業に係る収支を經理するために設けられたものである。

国民年金特別会計のしくみ

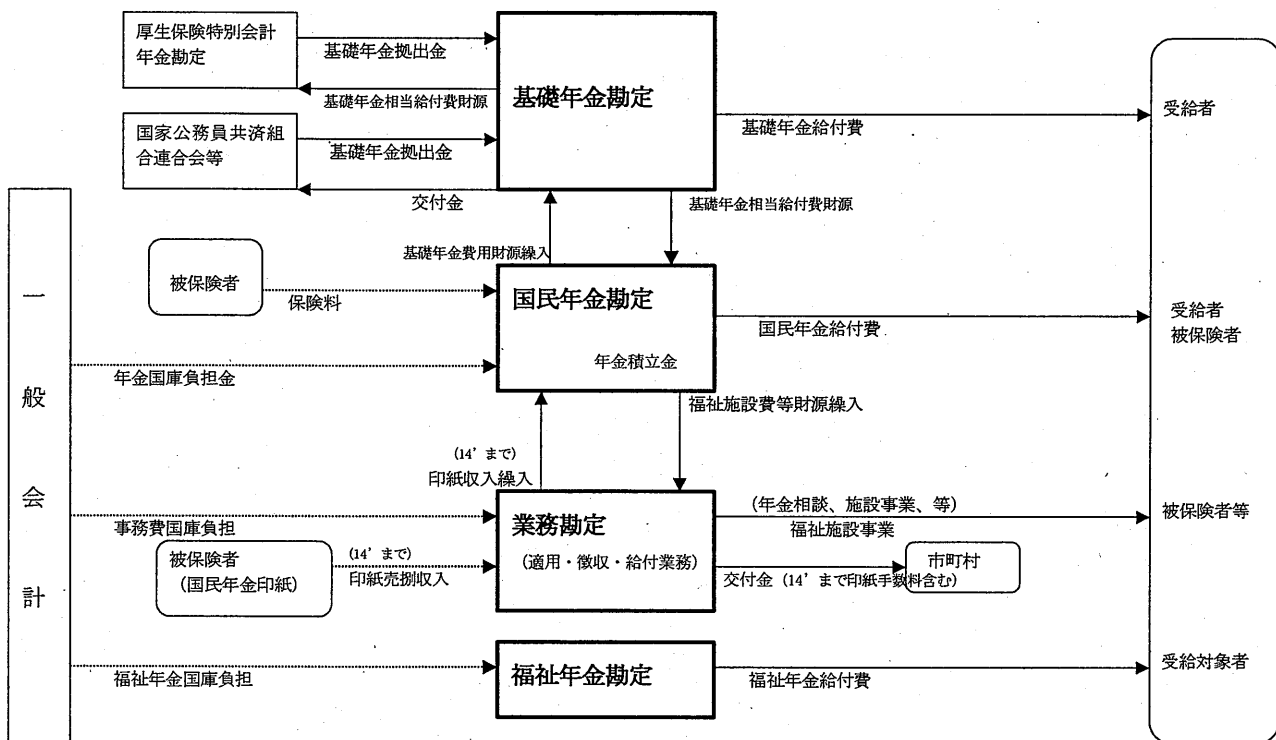


基礎年金勘定

◎ 基礎年金勘定

この勘定は、基礎年金事業の収支（業務勘定に係るものを除く。）を經理するもので、基礎年金の 給付に要する費用に充てるための国民年金勘定及び厚生保険特別会計年金勘定からの受入金並びに 年金保険者たる共済組合からの拠出金を主な財源として基礎年金給付費等の支出を行っている。

○国民年金特別会計の仕組み



比較貸借対照表

国民年金特別会計基礎年金勘定

| | 平成11年度末 | 平成12年度末 | 平成13年度末 |
|----------------------|------------------|------------------|------------------|
| (単位:百万円) | | | |
| 資産の部 | | | |
| 現金・預金 | 1,686,636 | 1,730,703 | 1,870,740 |
| 未収金 | 2,830 | 2,904 | 2,889 |
| 貸倒引当金 | △ 1,415 | △ 1,452 | △ 1,444 |
| 資産合計 | 1,688,052 | 1,732,156 | 1,872,185 |
| 負債の部 | | | |
| | — | — | — |
| (負債計) | — | — | — |
| 資産・負債差額の部 | | | |
| 基準時資産・負債差額 | 1,042,922 | 1,042,922 | 1,042,922 |
| 資金(積立金) | 724,607 | 724,607 | 724,607 |
| 業務費用・財源差額累計 | △ 79,478 | △ 35,373 | 104,655 |
| (資産・負債差額計) | 1,688,052 | 1,732,156 | 1,872,185 |
| 負債及び資産・負債差額合計 | 1,688,052 | 1,732,156 | 1,872,185 |

比較業務費用・財源計算書

国民年金特別会計基礎年金勘定

(単位:百万円)

| | 平成11年度 | 平成12年度 | 平成13年度 |
|------------------|------------|------------|------------|
| I 業務費用 | 13,384,473 | 13,774,056 | 14,074,329 |
| 基礎年金給付費 | 7,614,619 | 8,477,441 | 9,363,319 |
| 国家公務員共済組合等交付金 | 791,055 | 768,687 | 729,540 |
| 他会計(勘定)へ繰入 | | | |
| 国民年金勘定へ繰入 | 2,674,773 | 2,570,129 | 2,424,546 |
| 厚生保険特別会計年金勘定への繰入 | 2,303,639 | 1,957,354 | 1,556,579 |
| 貸倒引当金繰入額 | 258 | 340 | 262 |
| その他支出 | 126 | 103 | 81 |
| II 本年度受入財源 | | | |
| 対価見合収入等 | 13,304,995 | 13,818,160 | 14,214,359 |
| 拠出金収入 | 1,465,476 | 1,561,990 | 1,596,150 |
| 運用益 | 38,620 | 30,440 | 20,910 |
| その他収入 | 5,792 | 6,000 | 5,420 |
| 厚生保険特別会計年金勘定より受入 | 8,823,468 | 9,127,239 | 9,304,796 |
| 国民年金勘定より受入 | 2,971,636 | 3,092,488 | 3,287,081 |
| 差引 | △ 79,478 | 44,104 | 140,029 |
| 本年度業務費用・財源差額 | △ 79,478 | 44,104 | 140,029 |
| 前年度末業務費用・財源差額累計 | — | △ 79,478 | △ 35,373 |
| 本年度末業務費用・財源差額累計 | △ 79,478 | △ 35,373 | 104,655 |

比較区分別収支計算書

国民年金特別会計基礎年金勘定

(単位:百万円)

| | 平成11年度 | 平成12年度 | 平成13年度 |
|------------------|-------------|-------------|--------------|
| I 業務収支 | | | |
| 業務支出 | △ 8,405,674 | △ 9,246,128 | △ 10,092,859 |
| 基礎年金給付費 | △ 7,614,619 | △ 8,477,441 | △ 9,363,319 |
| 国家公務員共済組合連合会等交付金 | △ 791,055 | △ 768,687 | △ 729,540 |
| 基礎年金業務対価見合収入 | 1,465,476 | 1,561,990 | 1,596,150 |
| 他会計(勘定)からの受入 | | | |
| 厚生保険特別会計年金勘定より受入 | 8,823,468 | 9,127,239 | 9,304,796 |
| 国民年金勘定より受入 | 2,971,636 | 3,092,488 | 3,287,081 |
| 他会計(勘定)への繰入 | | | |
| 厚生保険特別会計年金勘定へ繰入 | △ 2,303,639 | △ 1,957,354 | △ 1,556,579 |
| 国民年金勘定へ繰入 | △ 2,674,773 | △ 2,570,129 | △ 2,424,546 |
| 前年度剰余金受入 | 1,041,507 | 962,029 | 1,006,096 |
| 小計 | 918,002 | 970,135 | 1,120,138 |
| 利息及び配当の受取額 | 38,620 | 30,440 | 20,910 |
| その他収入 | 5,533 | 5,623 | 5,165 |
| その他支出 | △ 126 | △ 103 | △ 81 |
| その他現金・預金 | 724,607 | 724,607 | 724,607 |
| 業務収支 | 1,686,636 | 1,730,703 | 1,870,740 |
| 本年度収支 | 1,686,636 | 1,730,703 | 1,870,740 |
| その他現金・預金 | △ 724,607 | △ 724,607 | △ 724,607 |
| 翌年度歳入繰入 | 962,029 | 1,006,096 | 1,146,133 |

注記 11年度

1. 重要な会計方針

1. 引当金の計上基準及び計算方法

(1)貸倒引当金

未納保険料については、過去5年間の保険料の収納額、不納欠損額に基づき算定し、また、その他返納金債権等の未収金については、過去の実績により算定している。

2. 追加情報等

1. 出納整理期間

予算決算及び会計令第3条及び第4条により出納整理期間が設定されており、出納整理期間中の現金の受払い等を終了した後の計数をもって会計年度末の計数としている。

2. 各特別会計固有の表示科目

積立金

昭和60年度国民年金法の一部改正により、従前の任意加入被保険者の保険料相当額を積み立てたものである。

3. 歳出予算の繰越等

繰越の調整

| | |
|---------------------|---------------------------|
| イ. 本年度業務費用・財源差額 | <u>△ 79,478百万円</u> |
| ロ. 本年度繰越見合財源 | _____ |
| ハ. 前年度繰越見合財源 | _____ |
| ニ. 繰越の調整後の業務費用・財源差額 | <u><u>△ 79,478百万円</u></u> |

4. 他会計（勘定）から受入

イ. 厚生保険特別会計年金勘定より受入

「国民年金法」等に基づく基礎年金給付等に要する費用に充てるための基礎年金拠出金の厚生保険特別会計年金勘定からの受入金

ロ. 国民年金勘定より受入

「国民年金特別会計法」に基づく基礎年金給付費等に要する費用に充てるための国民年金勘定からの受入金

5. 他会計（勘定）への繰入

イ. 国民年金勘定へ繰入

「国民年金特別会計法」に基づく基礎年金相当給付費財源の国民年金勘定への繰入金

ロ. 厚生保険特別会計年金勘定への繰入

「国民年金法等の一部を改正する法律」（昭和60年法律第34号）に基づく基礎年金相当給付費財源の厚生保険特別会計年金勘定への繰入金

附属明細書 11年度

1. 貸借対照表項目に関する明細

① 未収金の明細

未収金の明細

(単位：百万円)

| 内 容 | 相 手 方 | 本年度末残高 |
|-------|--------|--------|
| 年金返納金 | 年金受給者等 | 2,827 |

注記 12年度

1. 重要な会計方針

1. 引当金の計上基準及び計算方法

(1)貸倒引当金

未納保険料については、過去5年間の保険料の収納額、不納欠損額に基づき算定し、また、その他返納金債権等の未収金については、過去の実績により算定している。

2. 追加情報等

1. 出納整理期間

予算決算及び会計令第3条及び第4条により出納整理期間が設定されており、出納整理期間中の現金の受払い等を終了した後の計数をもって会計年度末の計数としている。

2. 各特別会計固有の表示科目

積立金

昭和60年度国民年金法の一部改正により、従前の任意加入被保険者の保険料相当額を積み立てたものである。

3. 歳出予算の繰越等

繰越の調整

| | |
|---------------------|------------------|
| イ. 本年度業務費用・財源差額 | 44,104百万円 |
| ロ. 本年度繰越見合財源 | ―― |
| ハ. 前年度繰越見合財源 | ―― |
| ニ. 繰越の調整後の業務費用・財源差額 | <u>44,104百万円</u> |